

ゾーニング計画の考え方

Idea of zoning plan

1) 北地区

医学部及び附属病院の主団地とし、敷地東側を医学部施設ゾーン、西側を病院施設ゾーンとする。それぞれの施設ゾーンは、正面性をアピールするために、正門からプラザ・ロータリーゾーンを介して、各施設のメインエントランスに至るように計画する。駐車場ゾーンは各用途別にブロック分けを行い、それぞれの出入口近くに設置すると共に、安全面・サービス面を考慮し構内道路を敷地外周に廻している。また、緑化については、敷地周辺はもちろん病院施設ゾーンと医学部施設ゾーンの間に設けて、憩いの場となるように計画する。

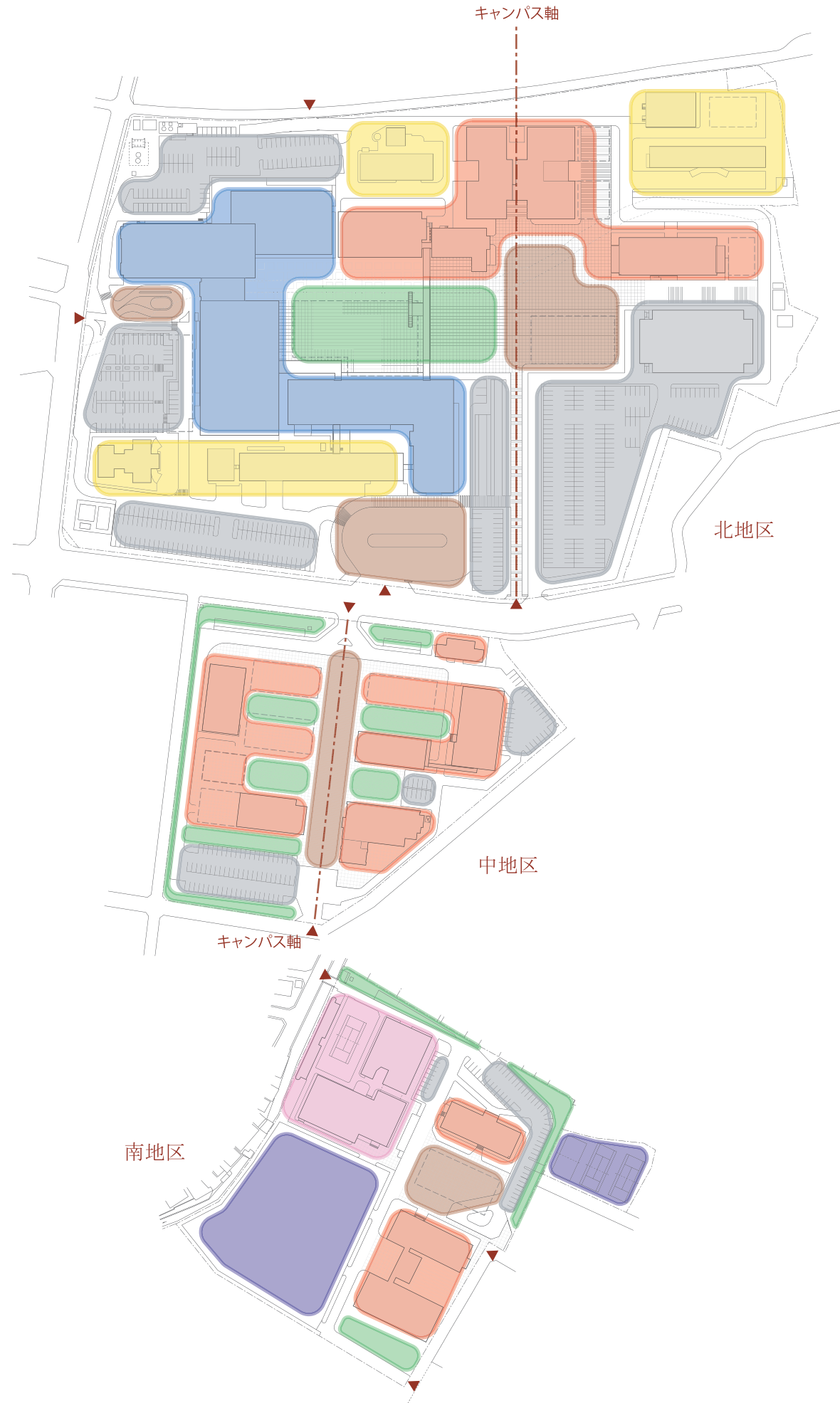
2) 中地区

地区全体を学内共同のCOE(センター・オブ・エクセレンスー研究拠点) 団地とする。構内道路は敷地外周に廻し、歩行者は中央のプラザ・ロータリーゾーンから各施設へアプローチできるように計画する。駐車場ゾーンはそれぞれのアプローチの近くに設け、外周道路と一体として整備する計画とする。緑化については、敷地周辺と各施設間に設けて、憩いの場となるように計画すると共に、プラザ・ロータリーゾーンは並木道として整備する。

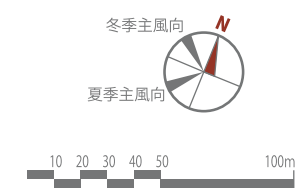
3) 南地区

医学部保健学科施設及び共用施設のための団地とし、敷地東側を保健学科施設ゾーン、西側を福利厚生課外活動施設ゾーンとする。

それぞれのゾーンへのアプローチは、近くの出入口から行うものとし、その接点に駐車場ゾーンを設ける。緑化については、敷地周辺はもちろん、駐車場ゾーンと校舎との間に緩衝植栽を配置すると共に、校舎間にはプラザを設けて学生の憩いの場とする



凡 例	
[Blue Box]	病院施設ゾーン
[Orange Box]	(北地区) 医学部施設ゾーン
[Orange Box]	(中地区) 研究施設ゾーン
[Orange Box]	(南地区) 保健学科施設ゾーン
[Yellow Box]	管理・サービスゾーン
[Brown Box]	プラザ・ロータリーゾーン
[Grey Box]	駐車場ゾーン
[Green Box]	緑地ゾーン
[Pink Box]	福利厚生課外活動施設ゾーン
[Purple Box]	運動施設ゾーン



CONTENTS

- 1. 施設整備の基本方針
 - 1.1 熊本大学の理念・目的・目標
 - 1.2 熊本大学組織図
 - 1.3 大学施設整備の目的・目標
 - 1.4 キャンパス計画のコンセプト
- 2. キャンパス概要
 - 2.1 キャンパス位置図
 - 2.2 現状施設
 - 2.3 経年別建物配置と現状施設データ
- 3. キャンパス計画・施設整備の将来構想
 - 3.1 施設整備の将来構想

3.2 キャンパス計画各論

- 3.3 意匠計画の考え方
- 3.4 アメニティ空間の整備計画
- 4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画
 - 4.1 施設整備の方針
 - 4.2 施設整備計画

主要動線計画の考え方

Idea of the main movement line

1) 北地区

現在の北地区におけるアプローチについては、熊本市の幹線道路である産業道路側からの病院アプローチ 1ヶ所のみ依存しており、来訪者の多い時間帯や、夕方のラッシュ時には渋滞が発生している。また、大学と病院のアプローチの共有は構内での歩行者動線と車両動線の交差の原因にもなっており、安全かつ快適なアプローチの整備が求められている。

整備計画では、既設アプローチ 3箇所の他に医学部再開発整備により産業道路に面する大学アプローチを新たに設け、大学、病院（主に外来）、病棟・救急、サービスの4箇所のアプローチを施設配置に適するように計画する。この新たなアプローチにより、大学と病院の動線を分離させ、車及び公共交通機関利用者や歩行者によるアクセスが安全かつ快適に行われる。また、全体の歩行者と車両動線は、極力重ならないように計画すると共に緊急時を考え車両動線は敷地全周に廻すものとする。その際、支障となる保育施設の整備については、今後検討を行う。

今後、キャンパス内の交通状況に応じて、4カ所のアプローチと併せて、敷地東側への車両出口も検討する。

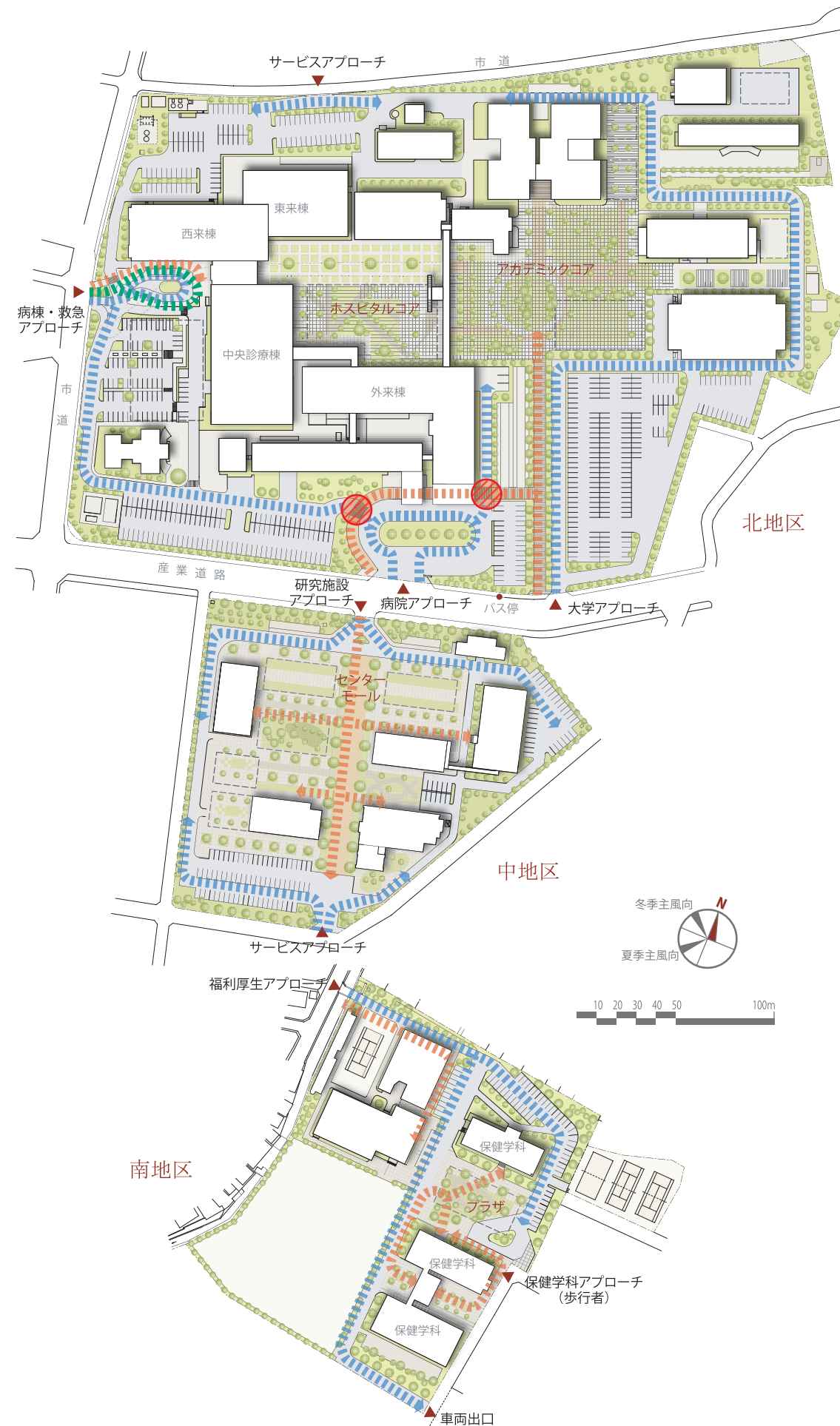
■交差する動線
附属病院と大学のアプローチが共有されているため、歩行者動線と車両動線の交差を招いている。完全に歩車分離がなされた安全な歩行者空間の整備が求められている。



■産業道路の渋滞 1
午前中の病院アプローチ前・産業道路渋滞の様子。附属病院の外来患者及び、大学の来訪者は午前中に集中するため、渋滞発生の原因となっている。



■産業道路の渋滞 2
夕方時の病院アプローチ前・産業道路渋滞の様子。夕方のラッシュ時には、附属病院と大学からの帰宅者が重なるため、よりいっそうの渋滞が発生する。



大学アプローチ

産業道路に面し歩行者と車両は完全に分離し、大学施設の中心となるアカデミックコアには車の乗り入れをしない計画とする。

病院アプローチ

既存外来棟との関係により現状アプローチを利用する。歩行者と車両動線の交差部にはゼブラゾーンを設ける。

病棟・救急アプローチ

病棟及び中央診療棟に近接する敷地西側市道から既存アプローチを利用する。

サービスのアプローチ

全施設の裏側となる北側市道から既存アプローチを利用し、メンテナンス・物品共用・廃棄物等の出入口となる各施設のバックヤードにつながるように計画する。



2) 中地区

産業道路に面する既存正門を研究施設のメインアプローチとする。南側についてはサービスアプローチとして利用する。歩行者の動線は一直線の南北軸とし、南地区の医学部保健学科へも直線的につながるように計画する。

車両動線は北地区と同様に敷地外周部に廻し、各施設のバックヤードにもつながるようにする。駐車場についても、敷地外周部に設ける。また、将来増築スペースを駐車場として仮設的に利用するなど、フレキシブルな敷地利用を図る。

3) 南地区

既存アプローチの2箇所を利用する。北西側を中地区とつながる福祉厚生施設アプローチ、南東側を医学部保健学科アプローチとする。歩行者と車両動線は出来るかぎり交差を避け、両アプローチの間に駐車場を計画する。

CONTENTS

- 施設整備の基本方針
 - 熊本大学の理念・目的・目標
 - 熊本大学組織図
 - 大学施設整備の目的・目標
 - キャンパス計画のコンセプト
- キャンパス概要
 - キャンパス位置図
 - 現状施設
 - 経年別建物配置と現状施設データ
- キャンパス計画・施設整備の将来構想
 - 施設整備の将来構想

3.2 キャンパス計画各論

- 3.3 意匠計画の考え方
- 3.4 アメニティ空間の整備計画
4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画
 - 4.1 施設整備の方針
 - 4.2 施設整備計画

駐車場・駐輪場 計画の考え方

Idea of parking lot and
bicycle-parking space plan

駐車場・駐輪場の整備について

本キャンパスでは、各地区での需用駐車台数と供給台数のバランスが著しく崩れており、全体の駐車場の供給台数においても需要駐車台数の70%程度の供給にとどまっているのが現状である。また駐車場・駐輪場共にキャンパス内に分散して配置されている状況であり、安全性、利便性での課題が大きい。

そこで歩車分離を踏まえた上での駐車場の再配置や、将来増築スペースの仮設的な駐車場利用など、早期に駐車場の集約化を図る必要がある。具体的には、一般来訪者の利用が多い北地区では、立体化による効率的な駐車台数の確保や、利用者特性に応じた駐車場のゾーニング（敷地西側を患者・来訪者用、敷地東側を職員・業者用）を検討し、土地の有効利用や、利便性、安全性を確保することを目指す。

それと同時に煩雑になりがちな駐輪場は、歩行者のアプローチに隣接させ、各地区ごとに集約した配置とする。無秩序化した現在の駐輪状況を改善し、地区内通路での歩行者の安全とアメニティ空間の確保を図る。



■北地区の駐輪の様子 建物足元に自転車が並ぶ

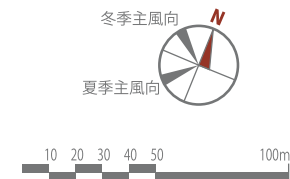


■北地区基礎研究棟前に建設予定の立体駐輪場



駐輪・駐車計画台数 (台)	駐輪・駐車計画台数 (台)	
	駐車	駐輪
北地区	743	700
中地区	109	180
南地区	61	380
合計	913	1260

凡例	
	駐輪場
	駐車場
	構内道路 (車両)



CONTENTS

1. 施設整備の基本方針
 - 1.1 熊本大学の理念・目的・目標
 - 1.2 熊本大学組織図
 - 1.3 大学施設整備の目的・目標
 - 1.4 キャンパス計画のコンセプト
2. キャンパス概要
 - 2.1 キャンパス位置図
 - 2.2 現状施設
 - 2.3 経年別建物配置と現状施設データ
3. キャンパス計画・施設整備の将来構想
 - 3.1 施設整備の将来構想

3.2 キャンパス計画各論

- 3.3 意匠計画の考え方
- 3.4 アメニティ空間の整備計画
4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画
 - 4.1 施設整備の方針
 - 4.2 施設整備計画

緑地計画の考え方 緑地計画について

Idea of green tract of land plan

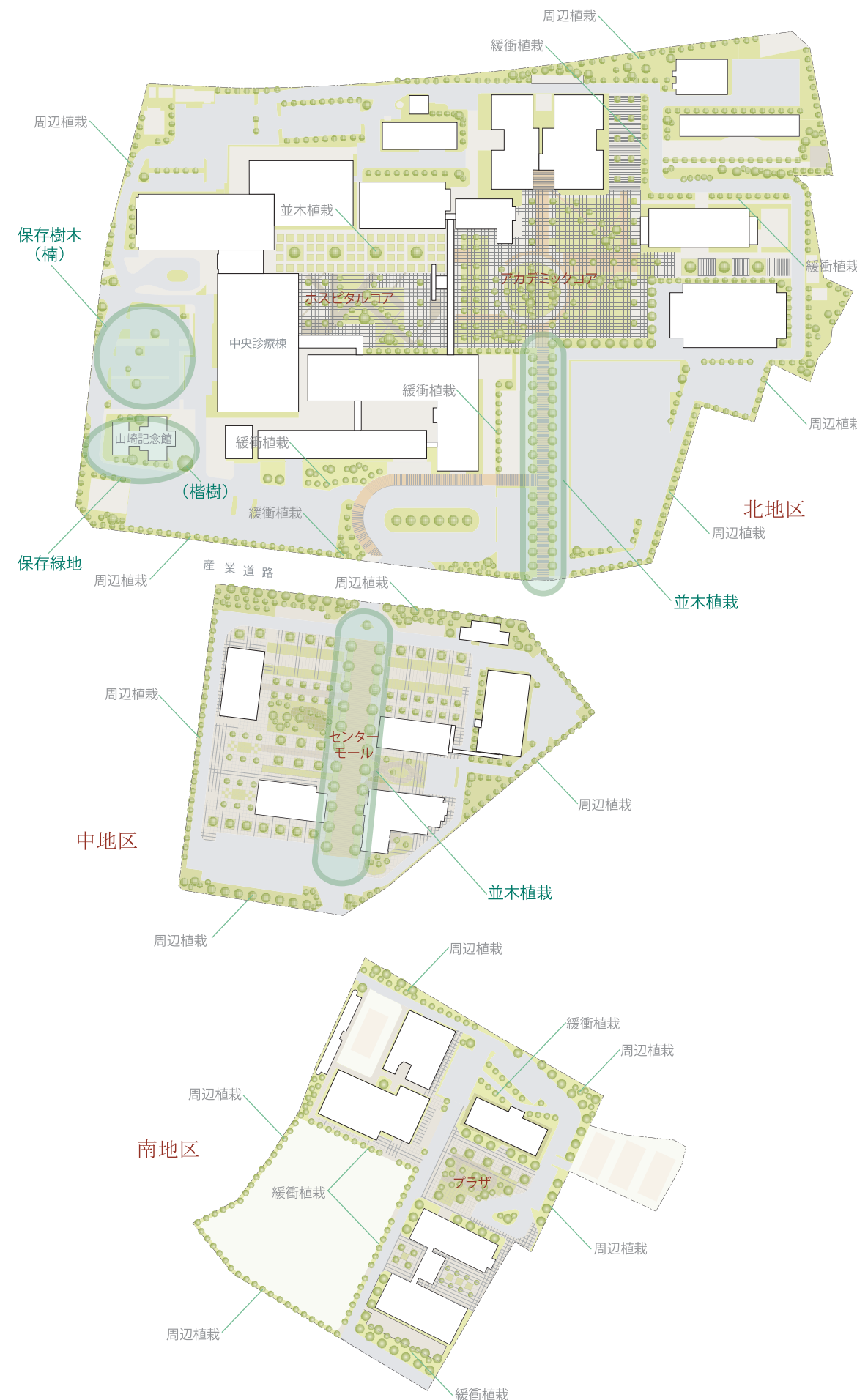
本荘キャンパスは、幹線道路である産業道路に面し、周辺は商業地域であり、緑地の少ない地域となっている。このため本荘キャンパスは周辺環境から自らを守るだけでなく積極的に地域の環境づくりに寄与するよう務めることが望ましい。キャンパスの配置計画に合わせ植栽区分を周辺植栽・並木植栽・緩衝植栽の3つに区分し、目的・機能に応じた植栽計画とする。また、キャンパス内には既に豊かな樹木が多く育っており、極力既存樹木を活用及び移植利用する計画とする。



■現在の中庭の例（中地区）
豊かな樹木が育っているが、倉庫置場と駐車場に使用されている中庭。



■快適な緑地空間の整備
現在の本荘キャンパス内でも豊かな樹木が多く育っているが、上図の様に中庭が倉庫置場や駐車場に使用されていたりと、必ずしも緑地や植栽が豊かなアメニティ空間を形成しているとは言い難い状況にある。整備計画では、環境保全や印象的な景観形成、快適なキャンパス空間創造の視点から積極的な緑地空間の整備を行い、キャンパス全体のアメニティ向上を図る。下図は並木植栽による中地区のセンターモールの整備イメージ。



■植栽の区分と目的・機能

区分	目的・機能
周辺植栽	外周部の植栽で季節風・騒音・排気ガスなど外部からの様々な影響を緩和する植栽とする。
並木植栽	メインアプローチ・構内道路等に列植する。利用者への導入の意味合いだけでなく、シンボリックで印象的な景観を形成する。
緩衝植栽	主に建物周辺の植栽とし、立入防止・遮蔽等の機能を持つ。常緑樹を中心とした植栽とする。



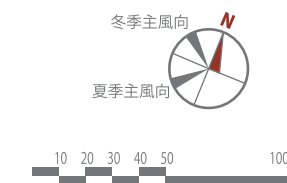
■保存樹木の楷樹（山崎記念館前）



■保存樹木の楠（中央診療棟西側）

凡例

- 中高木等のイメージ
- 低木・地被類等のイメージ
- 建物
- 主に景観形成を担う緑地



CONTENTS

1. 施設整備の基本方針
 - 1.1 熊本大学の理念・目的・目標
 - 1.2 熊本大学組織図
 - 1.3 大学施設整備の目的・目標
 - 1.4 キャンパス計画のコンセプト
2. キャンパス概要
 - 2.1 キャンパス位置図
 - 2.2 現状施設
 - 2.3 経年別建物配置と現状施設データ
3. キャンパス計画・施設整備の将来構想
 - 3.1 施設整備の将来構想

3.2 キャンパス計画各論

- 3.3 意匠計画の考え方
- 3.4 アメニティ空間の整備計画
4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画
 - 4.1 施設整備の方針
 - 4.2 施設整備計画